

ベナン月例報告（2013年11月）

1. 内政

- ・ 2日、アマドゥ・ジブリ（Mme Fatouma AMADOU DJIBRIL）農業・畜産・漁業大臣は、ガバナンスの悪さを理由に、政府が綿花開発公社（SODECO:Société de Développement de Coton）を収用する旨決定したと発表した。同公社の株式については、2009年10月より、政府が49.0%、タロン（M.Patrice TALON）氏の所有するSCP社が51.0%を保有していた。今般、政府は、2009年に政府からSCP社に売却された政府保有株17.5%につき、補償として約61億FCFAをSCP社に支払う代わりに、かかる保有株を再度強制的に買い戻す旨決定した。同決定に関しては、ベナン経団連会長を務める大物実業家アジャボン（M.Sébastien ADJAVON）氏も政府の決定を強く非難した。
- ・ 5日、度重なる延期のため実施されないベナン商工会議所評議員選挙につき、ウィンウィ（Mme Naomie AZARIA HOUNHOUI）産業・商業・中小企業大臣は、アダベ（M.Nicolas ADAGBE）経済社会評議会（COS:Conseil Economique Social）代表と会談し、同問題の解決に向けた意見交換を行った。
- ・ 7日、9月に解散したRB議員グループ「国家と開発」が、与党連合議員3名の加入を受けて再結成した。また、ヤイ政権に批判的な議員グループ（9名）が、「国民の団結と平和」を結成した。
- ・ 17日、オグビィ（M.Guy OGOUBIYI）国家汚職対策局（ANLC）局長は、民法テレビ局「Canal 3」に出演し、同対策局が設置され早6ヶ月が経過しているにも拘わらず、この間、政府が全く同対策局の運営費及び職員給与等を支給していない旨公表した。

2. 外政

- ・ 7日、ニジェールのイスフ（M.Mahamadou ISSOUFOU）大統領がベナンを訪問し、ヤイ大統領とともにニジェール・ベナン鉄道計画に関する覚書に署名した。かかる覚書では、両国が仏ボロレ（Bolloré）グループ等との官民連携の下、コトヌ・パラク間鉄道再整備及びパラク・ニアメ間鉄道敷設を実施する旨合意された。
- ・ 13日、ヤイ大統領は、ロメで開催された西アフリカ開発銀行（BOAD: Banque Ouest Africaine de Développement）設立40周年記念式典に出席した。
- ・ 19日、第3回アラブ・アフリカ首脳会議がクウェートで開催され、ヤイ大統領が出席した。ヤイ大統領は、ザハーハ（M.Sheikh Sabah Al Ahmad Al Jaber Al Sabah）クウェート首長と会談し、クウェート開発基金による複数の対ベナン投資プロジェクトに関する意見交換を行った。また、クウェートがベナンの食糧自給のため400万ドルを供与する旨合意した。

- ・ 22日及び23日、セネガルのマッキー・サル（M.Macky SALL）大統領がベナンを訪問し、ヤイ大統領と会談した。両大統領は、両国外務省間の政治協議メカニズム創設及び二国間協力委員会の設置に関する二協定に調印した。また、2015年1月1日から設定されるECOWASの対外共通関税等の域内協力について意見交換を行った。
- ・ 28日及び29日、赤道ギニアのオビアン・ンゲマ（M.Obiang Nguéma Mbasogo）大統領がベナンを訪問し、ヤイ大統領と会談した。ンゲマ大統領は、コトヌ市内に赤道ギニアのCCEI Bankの支店を開設する旨発表した。

3. 経済

- ・ 8日、ソンガイ・センターとベナン政府がパートナーシップ契約を結ぶことが決定し、ンザムジョ（M.Godfrey NZAMUJO）同 NGO 代表及びドウ・スザ（M.Marcel Alain de SOUZA）開発・経済分析・未来計画大臣が同契約に署名した。同契約では、ソンガイ・センターが同センターの開発手法を政府に提供する旨等が定められた。
- ・ 21日、国営通信会社ベナン・テレコム（M.Komi KOUTCHE）の経営状態が悪化している問題につき、クチェ（M.Komi KOUTCHE）通信・情報通信技術大臣が、同問題の改善を図るため、ベナン・テレコム幹部及びその他関係者と会合を開いた。

4. 開発・協力

- ・ 1日、西アフリカ開発銀行のアドヴェランデ（M.Christian ADOVERANDE）総裁がベナンを訪問し、ベナンにおける道路インフラ整備（パラク（Parakou）ージュグ（Djougou）間道路、及びコメ（Comé）ーロコサ（Lokossa）間道路）及び地方電化計画のため2千億 FCFA の借款を実施することを決定した。
- ・ 3日、ダ・シルバ（José Graziano da SILVA）FAO 事務局長がベナンを訪問し、ヤイ大統領とベナンの農業について意見交換を行った。また、同事務局長は、ベナンの農業関係者との会合を実施し、農業セクターにおける民間部門参入の重要性を強調した。
- ・ 14日、ベナン在住レバノン人会がベナン人の病人のための献血会を実施した。
- ・ 同日、中国による対ベナン経済技術協力に関する二協定が締結され、タオ（M.Weiguang TAO）駐ベナン中国大使及びバコ（M.Nassirou BAKO-ARIFARI）外務・アフリカ統合・仏語圏・在外ベナン人大臣が署名式を実施した。供与額は、160億 FCFA に上る。
- ・ 19日、トルコ航空が、9人のベナン人ジャーナリストをトルコに招待した。加えて20日、トルコ航空は、2014年3月よりトルコ・ベナン間を結ぶ路線を就航する旨発表した。
- ・ 18日から20日、日本大使館が折紙専門家を招致し、たけし日本語学校、パウ

(Pahou) 小学校及びコトヌ零細漁港等で折紙ワークショップを実施した。

- ・ 20日、日本大使館はベナン人ジャーナリストに対し、経済協力視察ツアーを実施した。ラギューン母子病院 (HOMEL: Hôpital de la Mère et de l'Enfant-Lagune)、コトヌ市雨水排水施設及びコトヌ零細漁港等を視察した。
- ・ 同日、Bank of Africa 基金は、コトヌ国立大学病院 (CNHU-HKM: Centre National Hospitalier Universitaire Hubert Koutoukou MAGA) の小児病棟を改築し、トラオレ (M. Ramatoulaye Derremaux TRAORE) 同基金総裁及びカンデ・ガザル (Mme Dorothée KINDE GAZARD) 保健大臣が引渡式を実施した。
- ・ 25日、ヤイ大統領及びタオ中国大使は、中国がアボメ・カラヴィ (Abomey-Calavi) において建設を進めている職業訓練高校の視察を行った。同工事の総工費は、約70億 FCFA に上り、現在約60%まで工事が完了している。

5. 社会

- ・ 12日、アボメ・カラヴィ大学において、同校学生が大学登録料制度の変更に関する抗議行動を実施し、鎮静化のため出動した警察との間で衝突した。

6. 治安

- ・ 1日、ポルト・ノヴォ (Porte-Novo) 第一審裁判所は、薬物対策の一環として、同裁判所が本年度に押収した2,512キロの大麻、96.6キロのコカイン、3,659キロのインド大麻及び1,896キロのその他の薬物を焼却処分した。
- ・ 3日、23人のベナン人が中国で麻薬所持の容疑で死刑を宣告された。
- ・ 4日、ズー (ZOU) 県においてベナン・テレコムのカブルの窃盗を繰り返していたとして、複数の男が逮捕された。被害総額は、1億 FCFA に上ると見られる。
- ・ 6日、コトヌ市サン・ジャン (St Jean) 教会で、お祈りに来ていた女性に対し、ナイフを突きつけ車を奪おうとしたとしてコートジボワール人の男が逮捕された。
- ・ 19日、パラクで砂を積載したトラックが運転中に制御不能となった結果、前方の車に衝突し、3名の死亡者が出た。
- ・ 20日、コトヌ市内の金融機関 Western Union で強盗を働こうとしたマリ人及びベナン人の二人の男が、駆けつけたコトヌ市警察との間で双方に射撃戦になり、その最中に射殺された。
- ・ 26日、パラクにおいて、病人をボルグ県立病院に搬送しようとしていたバスが、道路を横断しようとしていた子どもを避けようとして横転し、かかる子ども及びバスに乗車していた3人が死亡した。